

「ジャグラーズ通信」改め

ジャグパル

JugPal

1999年6月7日 第4号



特別寄稿

【ジャグリングを楽しもう！】

こんにちは石川です。今回は「カスケードとそれ以外の技が少し出来る人」のために、簡単なルーティンの作り方のヒントをカスケードを中心に書きたいと思います。

まず、ルーティンを作るときに、自分は何種類くらいの技が出来るかノートなどに書き出して下さい。(自分のアイデアや何を練習したかなどを書き留めておくと、後々役に立つことがあるかも知れません。ノートを作ることは強くお勧めします)

何種類くらい書き出せましたか？さて、ここで問題です。一つの技を簡単に「一つ」と勘定をしませんか？例えば「カスケード」。「カスケード」と言っても一つの技にしていませんか？

「カスケード」にも普通のカスケードや高く投げるカスケード、フラッシュ、小さく投げる、幅広く投げたり、頭の上、体の下の方、足の下、早く投げたり、一つのボールだけを高く投げたり等々・・・、一つのカスケードのパターンでも体の位置やスピード、幅や高さなどに変化を持たせるだけで、これだけ違った種類になります。

これを他に自分の出来る技にも当てはめてみましょう。かなりのバリエーションになるのではないのでしょうか。

次に自分のできる技の確認です。自分の出来る簡単な技でも自分の思い通りに出来なければ、それは出来るとは言えません。簡単なものでもいいから、リズムや体の向き位置などを自分の思い通りに出来るようにしましょう。

カスケードも工夫次第で色々な形に変化するの分かって貰えたと思います。さて、次はこれらの技をどう見せるか？です。一つの場所で動かずジャグリングするのは見ている方としては退屈です。

普通のカスケードだけでも正面を向いてやるのと、横を向いてやるのでは見ている方の印象は変わります。カスケードしながら歩いたり走ったり、止まったり。見ている人の目の前でやったり、遠くでやったり。自分の周りにある空間を今までより使ってみましょう。

次は技と技の組み合わせです。同じリズムの技でも、その技と技の繋ぎの時にメリハリをつけるだけで違って見えます。一つのボールを高く投げるだけでも良いでしょう。

一つのボールを高く投げておいて、次の技に移ります。大切なのは変化をつけるということです。その技の持つ特質などを考え、体の角度やボールのスピードに変化を持たせるだけで、今までやっていた技が見違えるようになるはずですよ。

さて、使うボールの色と大きさはどうしましょう？小さいボールほど大きいボールより動きが早く見えます。また、小さいボールは手に持っているときに、手で隠れてしまいます。そう言った意味からでもできればビーンバッグ(直径6.67cm)以上の大きさのボールをお勧めします。因みに私は5ボールまでは2.75インチ(直径約7cm)のシリコンボールを使用しています。

次にボールの色。3個とも同じ色、または1個だけ違った色、または全色違う色。色を変えるだけで同じことをやっても印象が大きく変わります。自分の好きな組み合わせで色々試してみてください。

最後はスタートとフィニッシュの技を決めることと、やる時間の長さ。これは皆さんの出来る長さで良いと思います。1分間でも3分間でも。自分の気持ちの良い長さが一番でしょう。

ジャグリングは幾つかの技が出来るようになった後、次にその技を組み合わせ「見せる」というのが難しいと感じます。

「見せる」と言うことは、いかに見ている人の目を飽きさせなく、楽しませるか？「見せる」ために重要な要素、それは「変化」ではないのでしょうか？

皆さんも自分なりに工夫して様々な変化をつけ、自分だけのオリジナルの組み合わせや見せ方を編み出し、一つくらいは「これは私が考えた(発明した)見せ方です」と言うのを持ってみてはいかがでしょう？その技には愛着がわくはずですよ。

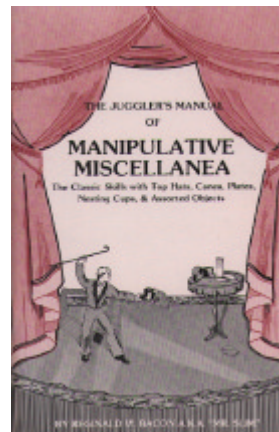
【プロフェッショナル ジャグラー：
石川 健三郎 <kenchan2@gol.com>】



書籍紹介

【The Juggler's Manual of Manipulative Miscellanea】

書名 :The Juggler's Manual of Manipulative Miscellanea
The Classic Skills with Top Hats, Canes, Plates,
Nesting Cups, & Assorted Objects
著者 :Reginald W.Bacon A.K.A "Mr.Slim"
ミスタースリムことレジナルド W. ベーコン
発行 :Variety Arts Press, P.O.Box #489 Newburyport, MA 01950
価格 :10ドル
ISBN :なし (1984年 初版)
購入 :Dube などのジャグリングショップで入手可能



ジャグリングというと、皆さんはどんな芸や道具を連想しますか？

まず、一番に頭に浮かぶのはボールやクラブ、リングでしょう。

英語での Juggling のもともとの意味は、「ものを次々に投げ上げて落とさない曲芸」ということですから、狭い意味での Juggling とは、ボールやクラブ、リング、ナイフなどを投げる芸のことを言います。

こう書くと、皆さんは、「じゃあ、シガーボックスやディアボロ、デビルスティックはジャグリングじゃないの？」と疑問に思うかもしれませんが。

答えはイエスでもノーでもあります。

これらの道具を使った芸は狭い意味では Juggling ではありませんが、練習しないとできない、道具を巧みに扱う曲芸」という意味で、広い意味でのジャグリングといえます。

ヨーヨーやけん玉もジャグリングと呼べますね。

今回は、もっとマイナーな分野のジャグリングについての本をご紹介します。

さて、静岡大道芸ワールドカップでドイツのパフォーマー、ジェットン Jeton を見た方は、「へえ、変わった曲芸だな。」と思ったのではないのでしょうか？

彼は、普通のボールジャグリングの他に、つま先からコインを蹴り上げて目にはめたり、大きな鏡を額の上に立てたままひっくり返したり、棒の先に輪状のレールをつけた器具を額に立てて膝の屈伸を使って、レール上のボールを回転させながら4ボールをジャグリングしたりという芸をしていました。

これらの芸は、20世紀の初め頃、テレビや映画が娯楽として発明される前の時代、あちこちを巡回して芸を見せるボードビルショー Vaudeville Show が娯楽の王様だった頃からの古典的な芸なのです。古典ゆえに、今では、する人も少なくなりました。

だからこそ、ジェットンの芸が光るのですが、...

もう少し最近では、お正月の「新春スター隠し芸大会」で堺正章氏がビザ生地を回す芸の前に少しだけやっていて、皿を手の上でひっくり返したり、皿が床に落ちる寸前で拾ったりする芸も、この範疇に入ります。

堺氏の芸の指導をしたと思われるジャグラーで、寄席によく出演している2人組ボンボンブラザーズは、このような芸も得意です。

しかし、これらの古典的な芸のやり方について書かれた本はほとんどないのが現状です。

本書 The Juggler's Manual of Manipulative Miscellanea は、普通のジャグリングではなく、古典的な芸だけを扱った貴重な本であり、今まで述べたような芸に興味があるならば、今まで述べたような芸をやりたいなら、必読の書と言えます。

A5版程度の小さな本で、ページ数も100ページほどですが、内容は非常に多岐に渡ります。

まず最初は、帽子を使った芸から始めて、ステッキを使った芸、帽子とステッキを使った芸と、昔の紳士のスタイルでの芸(Gentleman Style)に一章が割かれています。

次に、皿をひっくり返したり、体の上を転がしたりという皿を使った芸、シェーカーズカップの芸、お盆の上のスプーンを空中で一回転させて同じお盆の上のコップで受ける芸、などが続きます。

そしてさらに、ボールやクラブではなく、いろいろ変わったものを使ったジャグリングや、それらを演じる上での演出のヒントなどについても一章が割かれており、皿回し、スピニングボール、座布団回しなどの「回し系」の芸も扱われています。

少ないページ数でこれだけいろいろな芸を扱うわけですから、それぞれの芸については、基本となる技だけを解説し、応用についてはヒント程度しか述べていません。

たとえば帽子の芸について言えば、もっと詳しい専門の本やビデオがあるでしょうし、ステッキを使った芸についてもバトントワリングの本のほうが詳しく役に立つかも知れません。

でも、この本に書かれている基本を知れば、応用技をビデオなどで見たときに方法を見つけ出すのも容易でしょうし、自分で応用技を考え出すこともできるでしょう。

また、「曲芸をするために使われる物理法則」について詳しく説明していることも本書の特色です。慣性の法則、ジャイロ効果、空気の抵抗など、中学校で習った物理の法則が、曲芸をする上でどのように役立つかかわかり、それによってまた、曲芸の技についての理解も深まります。

もうひとつおまけに、本書のあちらこちらに紹介されている、昔のジャグラーが演じた信じられないような組み合わせ技の数々も一読に値しますし、歴史的資料としても重要です。

たとえば、「ゆるく張った綱の上に片足で立ち、左足首で輪を回し、綱を揺すって綱に通した(?)輪を回し、頭の上に洗面器を載せ、口にくわえた棒に靴を引っ掛け、右手の竿でタオルを回しつつ、左手でリング2本をジャグった(ソ連のクラウン Oleg Popov)などという芸も紹介されています。

英語で書かれていますが文章としては読みやすく、単語さえ調べれば、何が書いてあるかは十分わかんと思います。

温故知新と言うように、普通のジャグリングだけでなく、他人と違った分野を開拓してみたいなら、これらの古典的な芸を研究し、その中から新しい芸のアイデアを見出すのも面白いのではないのでしょうか。

[西川 正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]



サークル紹介

【サークル紹介】

このコーナーでは、全国各地のジャグリング・サークルを順次紹介していきます。

今回は 所沢 Juggling Club "JUGFLY" の紹介です。

なお現在把握しているのは以下のサークルですが、ほかにご存じのサークルがありましたらご紹介ください。(順不同)
また各サークルへの連絡先は、私宛にお問い合わせください。

所沢 Juggling Club "JUGFLY" (埼玉)
<http://raphael.mech.kogakuin.ac.jp/~ichiro/juggling/jugfly.html>
 綾瀬ジャグラーズミーティング JAM (神奈川)
<http://super.win.or.jp/~marjie/JAM.htm>
 ジャグリングクラブ マラバリスタ Makbaristas (東京)
<http://msgkb.ms.u-tokyo.ac.jp/malabaristas/>
 筑駒Jugglers
 筑波大学附属駒場中学・高等学校ジャグリング同好会 (東京)
<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>
 静岡大道芸サークル WAPS (静岡)
<http://www.bekkoame.or.jp/ro/tomi/waps/>
 京都大道芸クラブ Juggling Donuts (京都大学)
 ジャグリングサークル JUG (大阪)
 日本福祉大学大道芸サークル (愛知)
 曲芸戦隊ジャグレンジャー (広島学院高等学校)



所沢ジャグリングクラブ"JUGFLY"は、平成10年10月、埼玉県所沢市に誕生したばかりのできたてはやはやのジャグリングクラブです。(おそらく埼玉県で唯一)

クラブができた経緯は、所沢市役所の企画で大道芸ワークショップというものが開催され、そこに集まったジャグリングに興味があった数人でクラブを結成しました。したがって、クラブ員は全員素人です。現在は中学生から社会人の方までの総勢約30名で活動しています。練習に参加しているのは毎回6~10人ぐらいですが、軽快な音楽をかけながら、楽しく練習していて、腕を磨いています。練習場所は所沢市民体育館を利用しています。

クラブの名前を"JUGFLY"にしたのは、所沢市は日本で最初に飛行機が飛んだということ而得名(知らない人も多いとは思いますが)、それにちなんで名づけました。また、技を磨いて飛躍しようという意味も込められていたりします。

クラブができたばかりなので、クラブでの活動はまだ少ないですが、これからいろいろなイベントにどんどん参加していきたいと考えています。今年の4月3、4日に行われた所沢市民文化フェアで所沢ジャグリングクラブとしてのはじめての活動「初心者パルーンモデリング教室」を行い、無事成功を収めることができました。

所沢ジャグリングクラブの正式ホームページ (<http://raphael.mech.kogakuin.ac.jp/~ichiro/juggling/jugfly.html>) もあります。練習日等、クラブに関する記事を掲載していますので、所沢にお越しの際には一度遊びに来てください。

[JUGFLY代表:]

土田 一郎 <ichiro@raphael.mech.kogakuin.ac.jp>



ワークショップ°リポ°ート

【ワークショップ (ディック・フランコ)】

イベント名: ワークショップ(ディック・フランコ)
 開催月日: 平成11年4月2日(金) 18:30~20:30
 開催場所: 青少年センター
 内容: 以下の通り

ディック・フランコ(Dick Franco)さんを迎えてのワークショップが開催され、急遽決定したにも関わらずプロを含む二十数名のジャグラーが参加しました。

ディックさんはアメリカのショービジネスの世界で、数十年の間トップジャグラーとして全世界を飛び回って活動しているだけあって、その考え方にはプロとしての確固たる信念がうかがえます。彼についてはホームページ (<http://www.juggling.org/fame/may/franco.html>) が参考になります。

ワークショップは、参加者から自由に質問を受け、それにディックさんが答えるという形式で進められました。西川正樹さんに的確に通訊していただいたにも関わらず、こうして書き出してみるとディックさんの言ったことが必ずしも正確には伝わらないという危惧はありますが、ワークショップを振り返ってみましょう。

5 ボールの練習方法

3つあるいは4つのボールを使っの5ボールの練習方法を紹介し、ジャグリングの練習における共通的な考え方について言及。

- ・ジャグリングにはテンポ(リズム)が大切
- ・静かな場所で練習し、音を聴きそのテンポをつかむ
- ・テンポを自分の中に刻み込む
- ・トリックには各々特有のテンポがあり、それを聴き分ける
- ・同じ軌跡を描くように注意すること
- ・できないトリックに関しては、まず小さい技(細かい技)に分解して一つずつ練習
- ・一つのトリックができたなら別の似たようなトリックに挑戦する

ビハインド・ザ・バックの仕方 (略)

ピルエットの仕方

- ・投げて、回る、という2つの動作をはっきりと区別すること。つまり投げ終わる前に回るな。
- ・1つを投げ上げてピルエットをする時には、身体の中心高く真っすぐに投げ上げる。

・3つのボールを投げ上げてピルエットをする場合にはコラムスの方が見栄えがするし、カスケードのように空中でぶつかり合う心配も無いので、コラムスを薦める。

ヘッドロール

身体に与えるダメージを考え、1回で10分以上続けて練習しないこと。

アルパート、トレフ

(略)

ミッド・エアー・キックアップ

(略)

演技上気をつけていること

ディックさん ঝক্।

「ジャグラーのために仕事をしているわけではなく、あくまで観客は普通の人たちなのだから、何を演じているか分からないようではだめで、トリックの違いがはっきりするように見せることに心がけている。例えば身体の上の方で演ったり、あるいは下の方、あるいは右の方で演ったりと、1ヶ所にとどまって演じているのは間違いである。また意外性のあることを演じ、エンディングに向かって波をつくりながら徐々に高めていくような演技をすべきである。」

確かに演技中に彼はよく動きます。あれほど動いて道具は落ち易くならないのだろうか、落としたらどうするのだろうか前々から疑問に思っていたのですが、演技中に道具を落とした時はどう対処するのか



といった質問に対しては、未だ落としたことはないといった驚くべき回答に、プロの厳しさを僅かながらでも感じ取ることができ、身が引き締まる思いでした。最後には彼のボールジャグリングのプログラムを演じてもらい、時間の短さだけが悔やまれるワークショッブでした。

おまけ

ディックさんは普段はとても穏やかな紳士で、何度か来日しているせいもあり大変な親日家で、特に和食や日本酒が大好きです。また在米の曲独楽師のこま鶴さんとも大の親友で、娘さんはこれまたおなじみのジャグラー、Noelle Francoさんです。

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]

レポート

野毛大道芸リポート ~その1~

滋賀大津で細々と、いや息も絶え絶えで活動しています、大津ジャグリングクラブの鳥本です。

ジャグリングを始めて間もなくの昨年に続いて2度目の野毛行き。とつても楽しみに正月前から企画して大津から5人、空ばかり見ながら着いた横浜は「雨」。あ~これが去年なかった『野毛ちかみち』を降りていくとスタンプラリーの案内所。そこのお姉さんに「大道芸はあるんですか?」って聞くと、あるっていうじゃありませんか。「よーし見るぞ」と気合充分。

しかしその『ちかみち』を出ると、おもいきりのどしゃ降り。「おひる頃には小雨になるかなあ。」なんて一縷の望みをもって野毛坂本通りにと歩いていったんですが、全員びしょぬれ状態。雨宿りに入ったトポスの前でつづつぶオレンジの中嶋さんにバッタリ出あって、その時中止を知り一同ポーズとしていました。

とりあえず、みなとみらい21でデビット・クレイパッチさんといはらつトムさんらを見た後、コメディナイトinランドマークホール。「プラコメ」は関西人のわたしには少し距離のある笑いがあつたマニアックな世界の2時間弱でした。雨で仕事にあふれた芸人さんもたくさん見に来ておられ、素顔の芸人さんを見られてちょっと得した気分になれました。

雨のため『野毛のちかみち』で雪竹太郎さんや長谷川きよしさんらが芸をしていたなんて、翌日の新聞で知ってとっても残念。

夜になつても雨は止まず、中華街に繰り出しましたが、帰りは暴風雨に見まわれ傘は骨だけ状態に!またまたずぶぬれになってしまいました。

荒れ狂う夜空を見て、ただ祈るしかないわたし達。そして、朝。私たちの思いが雲をも貫いたかのように晴れてくるではありませんか。大津から横浜までの途中、ずっとまわりの視線を気にしながら持ってきた脚立くん2台。出



番は回ってこないのかしら?なんて心配していましたが、やってきました。「人の輪の外側から脚立の上に立って芸を見る。」静岡から始めた裏技。

それにしてもすごい人々。まともに歩けやしない。そんな中、裏技の脚立を駆使しながら、つづつぶオレンジ、中国兄弟、デビット・ラムゼイ、バントマンガ、TO BE 2を見て、ナラン八のお店をちょっと覗いて「もっとみたいのに」時間切れ。前評判通りTO BE 2はとても楽しめました。スピード、ストーリーそしてメモを見ながらの巧みな日本語につい引き込まれてしまいました。

一日で2日分見ちゃおうと思っていたんですが、それは無理でした。できればもう少し早い時間から始めてくれたらなあなんて思いました。やっぱ半日じゃ不完全燃焼!来年もくるぞ!と心に決めて新幹線に乗り込みました。

関西では、大道芸のイベントってありませんねえ(わたしは、知らないだけかも)是非どこかであればお手伝いさせてください。

いつのまにか、当クラブはジャグリングを見るクラブになりつつあるようです。

[大津ジャグリングクラブ代表:]

鳥本 正一 <torisan@mx.biwa.ne.jp>

野毛大道芸レポート ~その2~】

私は4月25日(日)に、ジャグリング系の芸人を中心に商店街の大道芸を見て回りました。前日から続いた雨が朝10時ごろまで降っていてどうかと思われましたが、日中は暑いぐらいの陽気になり、人も多くて楽しかったです。

12:00 ~ 16:30の4時間半の間に私の見た芸人は8組。当然のことですが、1日だけだと時間が全然足りません。商店街の大道芸だけでも全て見るのは不可能ですし、MM21地区なんて遠すぎる.....。

以下に私の見た芸人について感想など書いてみたいと思います。芸名や括弧内の演目については公式ガイドブックの表記に従いました。

to be 2 (ジャグリングトリオ)

今回の最大の収穫でした。アクロバットを多用した、動きの大きな芸はどれも迫力満点で、日本語と英語が半分ずつの喋りも面白かった。

次から次へと繰り出される3クラブの技の数々には圧倒されました。3回転フラッシュなど個人技も安定していてよかったのですが、それよりも3本のクラブが3人の間を行ったり来たり、投げたり弾ませたり挟んだりの連続技が素晴らしい。

私が凛然としたのは大トリ(シーソーを使ったアクロバット)の前のクラブパスでした。1人が支えのない梯子の上にバランスをとりながら立ち、もう1人が舞台上に上げた客の肩の上に立って、1回転セブン!!!

ダンディGO (ローラーボーラー、コミカルジャグリング)

以前から名前および噂はよく聞いていたのですが、見るのは今回が初めてでした。ダンディGOはその名の通りダンディで、ヘルメットをかぶったり、その上で花火に点火したりといったバカな芸をするときもダンディに決めていて、とても格好よかった。

ダンディであるための動き、踊り、喋り方、表情、決めポーズなどはよく研究されており、洗練されたものでした。

鏡味小仙 (江戸の太神楽)

太神楽を覚えた若手芸人が何人か出演していました。お囃子に始まり、獅子舞、傘回しとお馴染みの演目が続きます。

注目すべきは仙達の行なった1個の鞠と2本の撥を使った演技で、かつて小仙がJAで披露したこともある芸です。3つの物体をカスケードに投げたり、シガーボックス系の技を入れたりしていました。

トリの水を使った芸は見るのも初めてでしたが、技術的にも視覚的にも素晴らしいものでした。

ヘルシー松田 (コミックパントマイム)

途中から見たのですが、結構笑いました。特におかしかったのが色々な人種の笑い方で、アメリカ人、中国人、ドイツ人などを演じていました。あと「野球を3つのスピードで見せる」という演目では、普通のスピード、スローモーションときて、3番目がコマ送りだというのが意表を

突いていてよかったです。

以前、雪竹太郎がやっていた「体操の吊革のパントマイム」をヘルシー松田もやっていました。実はメジャーな演目だったのでしょうか?

デビット・ラムゼイ (マジカルバラエティ・エンターテイナー)

毎度おなじみの紫のスーツに身を包み、まじめな顔でバカっぽい芸を披露していました。演出もうまくて、雰囲気も怪しいためかちょっとした手品(私が見たときはインビジブル・デッキ)でも大受けしていました。日本語うまいっす。ダブルスピン速いっす。

モン太郎 (コミックジャグリング)

何年かぶりに見たらとても面白かった。シェーカーカップ、3クラブ、3~5ボール、シガーボックス、ローラボーラーと色々な道具を使った盛りだくさんの内容で、客との会話も多くてよかったです。ローラボーラーは普通の板ではなく、スーツケースを使っていました。シガーボックスでは、右に移動しながら外抜きを15連続するという、ある意味で難易度の高い技を見せていました。

パート・バンダイク (綱渡り、ジャグリング、トーチ)

芸風というか、芸の内容がクリスチャン・タゲに似たところがあります。4人の客にロープの一端を支えてもらって、その上を綱渡りしながら3トーチでカスケードをしました。

客を大勢使い、言葉ではなく奇声(?)で説明し、客にも演技を強要するというスタイルでした。

ブルーノ・ディスカベス (パペット、バイオリン演奏)

通り掛かりにちょっと覗いただけですが、数人の子供を舞台上に上げて人形を自由に操らせつつ、自らはバイオリンを弾くという変わった演出をしていました。

演技の最後に自分のCDを売り始めたあたりはさすが音楽系の大道芸人でした。

今回野毛を見て、静岡のスタイルよりもいいなと思いました。

これら性格の異なる2つのイベントを比較することに意味があるのかどうかは分かりませんが、純粋に観客の立場から見て感じたことを記しておきます。

野毛は静岡より規模が小さいということがその主な原因ですが、演技ポイント間の距離が狭いこと、ポイント自体が少ないこと、遅れて行っても見るのが不可能なほどの何重も何十重もの人垣はできないこと、などが利点として挙げられます。

また、1つの演技ポイントでは2組の芸人しか出演しないということもよかったと思います。静岡のような厳密な時間割がない代わりに、いつ行っても少しの待ち時間で目当ての芸人を見ることができました。

[加藤 邦道 <KFA07 3 67@nifty.ne.jp>]

お店紹介

ジャグリングショップ『ナランハ(NARANJA)』

(<http://www.2u.biglobe.ne.jp/~naranja/>)

住所 東京都板橋区板橋1-9-11-303 (〒173-0004)

Tel 03-3962-1889 / Fax 03-3962-3404 / e-mail naranja@mvd.biglobe.ne.jp

取扱い: ピーンバッグ、クラブ、ディアボロ、デビルスティック、シガーボックス、リング、トーチ、バウンスボール、シェーカーカップ、解説書ビデオ、他

サーカスマテリアル専門店『MGG (むごん劇かんぱにい)』

(<http://www.nttl-net.ne.jp/mugongekico/h4.html>)

住所 横浜市中区野毛町1-52-207 (〒231-0064)

Tel 045-231-6543 / Fax 045-231-5936 / e-mail E-mugongek@peach.ocn.ne.jp

取扱い: ジャグリングボール、ジャグリング用クラブ、デビルスティック、ファイヤートーチ、ディアボロ、ジャグリング用ナイフ、リング、皿、シガーボックス、ハット、ジャグリング・サーカス小物、一輪車、ローラボーラー、玉乗り用玉、空中ブランコ、他

野毛大道芸リポート ~その3~】

イベント名：野毛大道芸フェスティバル
(<http://www.noge.com>)
開催月日：平成11年4月24日(土)~25日(日)
開催場所：野毛地区、みなとみらい21地区
内容：以下の通り

24日は雨天のため青空の下での大道芸は中止。
25日は暑いまでの晴天に恵まれ、心うきうき状態で出かけました。

野毛大道芸は、野毛地区とMM21地区と、広範囲(広域)で開催されるようになったため移動が大変ですが、ポイント数もかなり多くなったせいかあらかじめお目当てのパフォーマーを決めておけば、それほど待ち時間もなくて観ることができるでしょう。

私が観たパフォーマーのうちジャグリングのみを感想として記します。

パート・バンダイク(綱渡り、ジャグリング)

トリは観客にサポートさせて綱を張り、その上でのトーチジャグリング。ああ俺は今、大道芸フェスティバルに来ているんだなあ実感できるパフォーマンス。

tobe 2 (アクロバット、ジャグリング)

3人ともサーカス学校を卒業しただけあって、身体の動きはダイナミックでかつ美しいです。鍛え上げられた肉体から繰り出されるアクロバティックな動きにジャグリングが加わったその演技はまさしくアートです。

初来日ながら日本語を必死に勉強したかいもあって、観客とのコミュニケーションも楽しく愉快地にできていたが、彼らならおしゃべり無しでも、オリジナリティあふれる華麗でスリリングな演技で観客を十分魅了できるでしょう。

ジャグリングの美しさを再認識でき、満足満足。

キップ・レイナルズ(コメディジャグリング)

何回かは来日していて、小気味よいリズムでの演技は私のお気に入りです。

ハット、皿回し、ボール、リング、ローラボール、一輪車、ナイフ……次から次へと目まぐるしくスピーディにいろいろな道具が出て楽しいジャグリングを見せてくれます。

サイレント(おしゃべりは無し)ですが、観客とのコミュニケーションは十分とれているし、何より良く動きます。その動きはメチャメチャのようですがしっかりと計算され尽くされ、ジャグリングの技術も確かなものです。とにかくプロというものを感ぜさせるアーティストです。

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]

【五人囃子」旗揚げ公演】

公演名：国際サーカス村プロジェクト1999
「五人囃子」
開催日：平成11年4月18日(日)14時~15時30分
開催場所：前橋パブリックシアター
感想：以下の通り

国際サーカス村協会のプロジェクト公演(女性クラウングループ「五人囃子」による公演)の報告です。国際サーカス村協会や五人囃子についてはホームページ(<http://www.alpha-net.ne.jp/users/accircus/>)を参照してください。

クラウン公演では面白さは求めるものの、個人的には大声で笑わせてくれる必要はないし、笑いに関して言えば微笑みを与えてくれれば充分だし、さらに言うならばクラウンが私(観客たち)に見せてくれた笑顔をお土産に、来て良かったなあ、と暖かさの余韻を楽しみながら帰れば言うことなしと思っています。

そういった点では今回の公演を観終えても、まだまだ彼女たちの笑顔を一一人鮮明に思い浮かべることができるし、何よりもまた会いたいという気持ちがあるくらいで、私は十分楽しめたし満足しています。

クラウンといっても人間が演じるわけで、その人間の動きの美しさを存分に見せてくれようとするわけですから、そういった点でまず驚いたのはクラウンの皆さんの身体の鍛え方が凄いです！特に背筋や腹筋なんぞは桁違いにパワフルで、柔軟性に関してもたいしたものでした。話には聞いていた厳しいトレーニングの賜物でしょう。

クラウンにしてもジャグリングにしても身体表現法のひとつとしてとらえるならば、アーティストは己の肉体をさらけ出すわけですから、基本的な身体トレーニングは欠かせないものだと思います。

作品中にジャグリングも観ることができたので少し触れておきましょう。

でもアーティストックなイメージの世界のひとつとしてのジャグリング、つまりジャグリングのみを演じて見せているわけではなく、観客の想像力をかき立てるような遊びの世界を表現する一つの手法としてジャグリングを使っているのだから、ジャグリングだけを取りあげて感想を言っても無意味ですが、ここで見られたスカーフのジャグリングは気に入りました。

前場面で伏線としてスカーフ自体が有効に使われていて、ごくごく自然にスムーズにスカーフジャグリンへと移行します。クラウン4人、各々が舞うようにスカーフを使ってジャグリングをし、かつ各人が絡むようにスチールを合いながら次の場面へと移ります。

スカーフは初心者用アイテムとしてほとんどのジャグラーは取りあげませんが、ああいった演出で見せられるとスカーフもパカにしたものではないかと、少々反省しております。

開演前に演出家のクリューコフさんにお話を伺った際に、ジャグリングに関しては「まだまだ」と謙遜していましたが、クリューコフさん自身7ボールをこなす元ジャグラーでもあるだけに素晴らしいアイデアでした。女性ならではの美しさが出ていたし、各人がそれぞれ結構凝ったトリックをこなしているのを感じました。

素顔の彼女たちはとても元気で素敵な女の子たちです。

でも芸の話になれば真剣な表情でプロの顔を垣間見ることができそうですが、険しい道を歩み始めたばかりだから本場の意味での勝負です。可能性を感じさせてくれるだけに期待しています。

「五人囃子」はこれから全国公演予定です。お近くに来た際にはぜひご覧ください。

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]

【アクティブトイ・フェスティバル99】

イベント名 : aMLUX & BANDAI
アクティブトイ・フェスティバル99
開催月 : 平成11年4月27日(火) ~ 5月9日(日)
開催場所 : aMLUX (東京都豊島区東池袋)
内容 : 以下の通り

aMLUX (アムラックス) とはトヨタの総合ショールーム(地上5階、地下1階)のことで、ゴールデンウィーク中のイベントとして、アムラックス内全館あけて、バンダイのアクティブトイ(ハイパーヨーヨー、ジターリング、ハイパーディアプロ)のコンテスト、オフィシャルトリック認定会、初心者チャレンジコーナー、あるいはショー等の様々なイベントが開催されました。5月4日(火)に息子と行き、息子は3種の認定にチャレンジし、参加賞としてハイパーヨーヨーのキーホルダーのつかみ取りをして10ヶほどゲットしてご満悦でした。

ショーでは、中村名人がハイパーヨーヨーのフリースタイルを2プログラム、MDAがディアプロのフリースタイルを3プログラム、そして2人でディアプロのデュオ演技を披露してくれました。

ご両人もさすがに巧い! 数多くの難しいトリックを黙々と次々にこなしていきますが、それゆえ緩急の差が無くどのトリックも同じように見えてしまうのは私だけでしょうか。テクニクがあるだけに少々残念です。バンダイの方針には概して認定システムに基づく競技指向性が見受けられるので、エンターテインメント性を求めると少し期待はず

れのところがあります。

特にご両人も演技中にはほとんど笑顔が見られないのは残念で、笑顔が見られるのは失敗した時の照れ笑いだけです。

それにしてもハイパーヨーヨーのオフィシャルトリックは、今年に入ってバージョンアップして前回より格段に難しくなりました。

オフィシャルトリックは1レベルにつき10のトリックから構成され、ハイパーヨーヨーに関しては「ベーシックレベル99」、「スーパーレベル99」、「H(ハイパー)レベル」、「THP・JPS(ジャパンプロスピナー)レベル」の4レベル、ディアプロは「DA1(ディアファン)」、「DA2(ディアソー)」、「DA3(ディアスリー)」の3レベル、ジターリングは「THE SLINGER」、「COOL SLINGER」、「PRO SLINGER」の3レベルといったようにきめ細かに設定されています。

このようにトリックがきめ細かに決められていると、技術を向上させる上では、練習においてひとつの目安になるので有効かもしれません。

バンダイではヨーヨーやジターリングやディアプロのアクティブトイを「ハイパーゲーム

(<http://www.hypergames.channel.or.jp/>)と称して次々にラインアップを揃えていくようです。さて次はどんなジャグリングが取り上げられるのでしょうか。

なおバンダイでは「DIABOLO」を「ディアプロ」と発音し、「ディアボロ」とは呼んでいません。

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]



イベント情報など

【イベント情報】

ジャグリングが見られるであろうイベント、またはワークショップの情報です。(順不同)

シャングリラ (ユーミンのライブステージ)
(<http://www2.crosswinds.net/shangrila/top.htm>)
6月~8月にかけて
国立代々木競技場第一体育館 (0180-993-999)
名古屋市総合体育館 レインボーホール (052-320-9700)
大阪城ホール (06-6233-8880)
横浜アリーナ (0180-993-999)
マリンメッセ福岡 (092-845-3856)

木下サーカス
(<http://www.icity.or.jp/kinoshita-circus/>)
6月20日(日)~8月30日(月)
海浜幕張駅前特設会場 043-276-5551

キグレNew サーカス
(<http://www.jah.ne.jp/kigure28/>)
7月4日(日)~8月22日(日)
富山県新湊市海王町富山新港海王丸パーク 076-4-45-3355

ザ・ポップサーカス
(<http://www2u.biglobe.ne.jp/pop-k/pop.htm>)
7月10日(土)~8月22日(日)
青森市上北郡下田町字中野平40-1 (イオン下田ショッピングセンター 駐車場) 0178-50-5155

ポリショイサーカス
7月23日(金)~8月1日(日)
東京ビッグサイト東3ホール 03-3234-7807
8月4日(水)~8月10日(火)
横浜文化体育館 03-3234-7807
9月10日(金)~9月12日(日)
千葉ポートアリーナ 03-3234-7807

レニングラード国立舞台サーカス
7月28日(水)
ハーモニーホール座間 0462-55-1100
8月22日(日)
よこすか芸術劇場 0468-23-9999
(<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/j/active/theater.html>)

PlanB コメディーナイト

6月17日(木)
小出直樹、三雲いおり、ハンガーマン、Mr.Dai、他
中野Plan B 03-3403-0561

三雲いおりファーストヴォードビルショー
6月21日(月)~22日(火)
中野Plan B 03-3403-0561
骨のオ・モ・ヒ・デ シルク空
6月25日(金)~6月27日(日)
スタジオP A C(東京都練馬区) 03-3993-9418

国立劇場演芸場(上席)
7月2日(金)~7月10日(土)
マサヒロ水野
国立劇場演芸場(親子で楽しむ演芸会)
7月31日(土)15時~
ケンジャグロー(石川健三郎)、三増紋之助、他
第22回大須大道町人祭
(<http://www2.starcat.ne.jp/iida/>)
10月15日(金)前夜祭~17日(日)
タック、清水芸人、ハンガーマン、マサヒロ水野、ダンディGO、三雲いおり、他
(http://www2.starcat.ne.jp/iida/22/event_22.html)

大道芸ワークショップ(所沢市)
月日: 6月25日(金)、7月3日(土)、8月27日(金)、9月4日(土)、9月24日(金)、10月9日(土)
場所: 所沢ミュージアム リハーサル室
講師: IKUO三橋、他
連絡: (財)所沢文化振興事業団 042-998-6500
第9国際サーカス村・子どもワークショップ
月日: 8月9日(月)~8月15日(日)
場所: 群馬県勢多郡東村・童謡ふるさと館/青年研修センター(宿泊所)
講師: 五人囃子
連絡: 国際サーカス村協会東京事務局 03-3403-0561

言いたい放題

【大道芸とジャグリング】

「ヨーロッパの夜」という1950年代に制作された映画をご覧になったことがあるでしょうか。フランス、ドイツ、イギリス、イタリア、スペインなどヨーロッパ各地にあるナイトクラブ、バーあるいは劇場などで夜毎に繰り広げられる様々なショーの映像を断片的に編集したドキュメンタリータッチの作品です。(私はビデオで見ました)

ショーと言ってもジャグリングを始め、マジック、パントマイム、スタンドアップコメディ、ダンス、魔術あるいは楽器演奏など本当にありとあらゆるバラエティアクトが次々と出てきて、それらをお酒と共に楽しむ着飾った大人の観客の笑顔を見て、羨ましく思ったものです。いやいや今でも羨ましいですけれど。

そういえばTVで放映されていたエドサリバンショーやポール・ダニエルズショーもそうでしたが、ジャグリングはもとより実に多彩な芸人のステージショーを楽しむことができました。ジャグリングは今でもこういったバラエティショーでは最も重要な花形芸の一つであることに間違いはありません。

さて、私的な話ですがジャグリングという芸能に特に意識して興味を持ちはじめた7年程前のこと、何の予備知識もなく初めて見たビデオが、「...TO BE THE BEST (Anthony Gatto)」と「In Motion with Michael Moschen (Michael Moschen)」でした。

前者ではAnthonyがステージで通常では考えられないほどの数の道具を完璧なまでに正確無比に操り、次から次へと華やかにトリックを決め続けるのに驚き、後者ではボールがまるで生きているかのように、そしてその生命体と対話しているかのようなジャグラーというよりはダンサーと呼ぶに相応しいMichaelの演技は、照明とあいまって優雅で神秘的で芸術的とも言える独自の世界を表現し、これもジャグリングなの?!という衝撃を感じると共にブラウン管に見入ってしまいました。

実は個人的には、そういったTVやビデオを観た後に、屋外での大道芸としてのジャグリングを野毛や静岡で体験し、ああこんなに面白いジャグリングのジャンルもあるんだと、ジャグリングを観る楽しみが一つ増えたという思いで喜んだことを思い出します。要するにジャグリングにひかれて見えてきた経緯としては大道芸が一番後になるのです。

様々な大道芸フェスティバルなどでジャグリングをみかける機会も増え、それにつれジャグリングの愛好者も増えてきました。このこと自体は非常に嬉しいのですが、先に例とし

てあげたようなステージ(あるいはサロン)ジャグリング等を観ることは国内ではあまりないですね。

普段大道芸をしている芸人が単に屋外から屋内へ場所を変えただけでプログラムはほとんど一緒というケースが見受けられますが、大道、ステージ、サロンは全く別物ですからプログラムが同じということはありません。

観客の人数・配置など空間的なもの、照明や音響などの設備面あるいは客層の違いや観客の意識面などから考えても、どのような環境下でも対応できるプログラムも、そしてまたパフォーマーも存在しないのではないのでしょうか。

日本ではジャグリングはまだまだキワモノとしかとらえられていないようで、エンターテインメントとしての認知度は低いようです。

各地に点在する立派な劇場(ハコモノ行政のおかげですが)でのジャグリングショーやホテルでのディナーショーなどで日常的にジャグリングを楽しめる日がいくつかあることを楽しみにしています。

イベントとしての大道芸は別として、本来大道芸では全てを演者は一人でこなさなければなりません、こういったショーを創り上げるには、アーティストはもちろんのこといわゆる表方や裏方といったスタッフが必要です。

国内でジャグリングのステージショーの類をなかなか観ることができないのはビジネスとして成り立ちにくいということもあるのですが、こういった人材面の問題も原因の一つでしょう。

スポーツ感覚で楽しめる屋外のジャグリングはもちろん楽しいですが、決して『ジャグリング・イコール・大道芸』ではないはずです。

ジャグリングというのは、料理で言えば一つの素材にあたるかもしれません。

一つの素材からでも調理法によっては、和食・仏料理・伊料理など様々なジャンルの料理ができあがるし、また同じメニューでもシェフによって当然見た目も味付けも異なります。

いつか日本でもジャグリングという素材を使った大道料理、ステージ料理あるいはサロン料理などを、個性あふれるシェフ(アーティスト)によって存分に楽しめる時がくるでしょう。きっと...

そして他の身体表現アートとの融合などを含め、えっこんなジャグリングの世界もあったのかあ、と驚くような幅広く深いジャグリングの可能性にとっぴりと漬かりたいと思うのは私だけでしょうか。

ジャグラーの皆さん、貴方はどんなシェフになって、どんな料理をご馳走してくれるのでしょうか。

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]

編集後記

お断り;

諸般事情により、本号からJJA(Japan Jugglers Association)とは別に、個人的に本誌を発行することになりました。誌名も「ジャグパル(JugPal)」と改め、インターネットにはない「紙」の良さを生かしたコミュニケーション誌になれればと思います。

編集発行人 安部保範

住所 横浜市栄区公田町424-9(〒247-0014)

PHS :070-5105-5083

e-mail :abesan@bf.mbn.or.jp

Nifty :QGB02014

Web : (見世物広場) <http://plaza4.mbn.or.jp/> chansuke/

梅雨に負けないでね。
情報ちょうだい...
原稿ちょうだい。

